

2018 年度日本科学者会議近畿地区シンポジウム

「豪雨災害・土砂災害 - 原因と対策 -」

主催：日本科学者会議近畿地区，共催：国土問題研究会

日時：2018年12月1日（土）13:00 開場 13:30 開演

会場：龍谷大学深草学舎 和顔館 B110 教室（京阪「深草」または地下鉄「くいな橋」下車）

資料代：参加者1人500円 院生，学生は無料

- 13:00 開場 司会 左近 拓男
- 13:30 開催趣旨説明 日本科学者会議京都支部代表幹事 宗川吉汪
- 13:35～14:15 「ハザードマップ」の作成と活用 奈良大学名誉教授 池田 碩
- 14:15～14:55 「西日本の地質・地形の特質がもたらした西日本豪雨の土砂災害，特に土石流災害」 神戸大学名誉教授 田結庄 良昭
- 14:55～15:35 「良いまちには 良い川がある」—— 水害問題にも触れつつ ——
国土問題研究会副理事長 中川 学
- 15:35～15:45 休憩
- 15:45～16:25 「災害の原因究明と対策」 京都大学名誉教授 奥西 一夫
- 16:25～17:00 総合討論
- 17:00～17:10 閉会のあいさつ 日本科学者会議全国常任幹事 河野 仁



会場は和顔館地下1階のB110教室です。エレベータもあります。

講演要旨

「ハザードマップ」の作成と活用

池田 碩 (奈良大学名誉教授・国土問題研究会会員) <専門: 自然地理学・地形学・地図学>

ハザードマップ(防災地図)は各自治体で作成,住民に配布が義務付けられている。今豪雨災害では,倉敷市真備町でも2016年に作成され配布されていた。被害はマップでの表現と同じ状況であったが,多くの家屋被害と犠牲者を出した。ほぼ同様の状況は,2015年関東の鬼怒川流域でも発生している。それはなぜかを反省し,京都や大阪での被災時,どう活用できるかを考える。

西日本の地質・地形の特質がもたらした西日本豪雨の土砂災害,特に土石流災害

田結庄良昭 (神戸大学名誉教授・国土問題研究会会員) <専門: 地質学>

西日本,特に広島県周辺は,日本でも花崗岩が最も広く分布し,しかも,断層に沿った急斜面や谷などが発達したところが多く,脆い花崗岩山地に急峻な斜面が分布し,崩れやすく,急勾配の河川が多く分布し,土石流が生じやすかったことも要因です。さらに,山際の谷出口の扇状地の土砂災害の危険性が高い所を開発したのも被害を大きくしました。

「良いまちには 良い川がある」—— 水害問題にも触れつつ ——

中川 学 (国土問題研究会副理事長) <専門: 河川計画>

水害を引き起こす第一義的要因は,降雨という自然現象であるが,被災地の地理的条件や土地利用の違いなどによって,被害の様相は多様である。また,水害発生を防止すべき行政の対応に問題がある事例も多く見受けられ,それらの検証も欠かせない。明治以降の治水対策の変遷にも触れつつ,今日必須とされる「流域治水」推進の重要性を指摘したい。また,水害問題だけでなく,暮らしに身近な365日の川づくりについても話題提供したい。

災害の原因究明と対策

奥西一夫 (京都大学名誉教授・日本科学者会議/国土問題研究会会員) <専門: 災害地形学,水文地形学>

災害に関する過去の知見を活かして,将来起こり得る災害の危険性(ハザード)を描き,これを地図形式で表現したものがハザードマップである。社会の一員の災害リスクは抽象的に, $リスク = ハザード \times 曝露程度 \times 脆弱性 \div 回復力$,という形で書かれる。本シンポジウムでは最近起きた自然災害について,ハザードと被害などについて報告されるが,ここではこれらの報告を取りまとめる形で,リスクを軽減するために,曝露と脆弱性を減らし,回復力を高める方策について考察する。